

議事録

審議会等名	第6回まちづくり検討委員会
開催日	令和2年1月21日(火) 10時00分～
開催場所	つくばみらい市保健福祉センター 会議室
出席者	有田委員長、鐘ヶ江副委員長、五木田委員、武藤委員、野口委員、生井委員、齊藤(常)委員、牟田委員、斎藤(保)委員、森田委員、白鳥委員、菩提寺委員、下鳥委員、中島委員 事務局(都市計画課): 奈幡部長、梅本課長、荒井副参事、荒川係長、島田主事 オオバ: 小林、遠藤
議題	1 報告 2 説明 (1) 都市計画マスタープラン改定(案)について (2) 立地適正化計画(案)について (3) その他

○質疑応答

発言者	意見
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの意見の中で、実績評価やPDCAサイクルを5年単位で実施するべきという意見もあるが、これは都市計画マスタープランに限らず、市で作成している計画全般に対して求められている。 ・私の個人的理解だが、市の総合計画では、市の予算で市がすべて責任持って進めていく内容であるため、実績評価で5年ごとの実行計画とかPDCAというのは書きやすいが、都市計画マスタープランというのは、市の様々なインフラ整備や、空間整備の内容が書かれていて、事業の内容によっては国や県の助力をいただかないといけないものもある。都市計画マスタープランに将来像として記載しているが、市が100%自分の裁量で責任を持ってできることだけが記載されているわけではないので書いてあるわけではないため、総合計画と同じような形で、簡単に実績評価は書きにくい面もある。パブリックコメントの回答では、「原案どおり」と記載されておりゼロ回答のように見えるが、どちらかという都市計画マスタープランのそういう特性をうまくご理解して見てもらうと良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりというのは、時間がかかる。都市計画マスタープランは10年、20年先を計画して内容を盛り込こんでおり、2～3年ではまちづくりとして成果が出しにくい。都市計画マスタープランの特性を記載して、市民の方に分かりやすい形で報告を検討したい。
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・県からの指摘は非常に正論を述べている。実際、都市計画マスタープランは長期的な計画であり、計画に記載された内容で20年、30年先までその空間の使い方を縛ってしまうこととなる。「市街化調整区域」については、方針を決めると先々すごく影響があり、10年経って状況が変われば都市計画マスタープランを変更すればいいという考えもあるが、簡単に方針を変えることはできない。まちづくりの成果を出すには時間がかかると思うが、そういった意味で大きな方向性は、はっきりしておいたほうが良いと思う。 ・人口推計は、いろいろなことで政策の数字の根拠になるので、どういうふう計算されたのかは、第三者から検証できる状況になっているほうが良い。市の内部が、10年経ってどういう計算根拠だったのか、分からなくならないようにしておくほうが良い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県の調整会議で出た意見については、今回の都市計画マスタープラン、立地適正化計画に内容には反映している。県北になるが、水戸市や常陸太田市は、今回の台風による被害が大きく、茨城県としても災害に関する文面は、つくばみらい市はどう考えているのかという質問があった。個別の地域防災計画もあり、そういった計画と都市計画マスタープランや立地適正化計画をうまく融合させながら、引き続きまちづくりにつきまちは、今後も防災対策、安全・安心なまちづくりとして推進していく。

(次ページへ)

発言者	意見
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境変動で災害が増えているというのは、日本だけじゃなくて世界的な問題であり、世界中の保険会社が大変厳しくなっているというのはよく伝えられている。保険会社は被害が出たときに、どれだけサポートしてくれるかということについても非常に厳しくなっていくと思う。市として防災対策をどれだけやっているかということについて、保険会社が非常にナーバスに、気にするような時代が来てもおかしくない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> つくばみらい市におきましても、一級河川である鬼怒川、小貝川という河川があり、つくばみらい市の地形上、水害に関しましては切っても切れないことがありますので、防災対策については引き続き、まちづくりとしても十分に考慮して、将来的なまちづくりを今後も進めていきたいと考えている。
鐘ヶ江副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 市長が変わって、まちづくりの方向性が急に変わったりすることは、本当にならないようにしてほしい。市民の方も一生懸命考えているので、都市計画課がまちづくりの実施に向けて頑張ってください。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 例えば市長が変わったとしても、この計画に記載されたまちづくりの方向性については変わらない。基本的に都市計画マスタープランの基本的な部分、例えば市街化区域、市街化調整区域の線引きや用途地域、土地利用というのは、市長が変わっても、変わらないというのは事実である。ただ、市長の公約等のプラスアルファの部分は当然出てくるかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 各エリアの構想として記載されていなかったのが、現在は将来的に安全な場所でないところに行政の場所が立地していると思うが、将来的にはどのように場所になっていくのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 伊奈庁舎と谷和原庁舎は、いずれも浸水想定区域の中に入っており、大きな災害があったときに、防災の拠点としてのいろいろな課題がある。将来、どうするか既に決まっていれば記載できるが、現在の時点では決まっていないため、記載することが難しい。ただし、谷和原庁舎を今後どうするかという検討委員会を財政課が担当になり、検討委員会を立ち上げたと聞いている。庁舎の方向性が決まると都市計画マスタープランの土地利用等、様々な場所に影響がでてくると思うので、その際には変更等についても検討していきたい。 検討委員会の件は谷和原庁舎の話であり、伊奈庁舎まで含めたという形ではない。意見の中では、高台のほうに伊奈庁舎、谷和原庁舎と分けなくて、一つの庁舎が理想的ではないかと意見も出ている。ただし、財政的な問題や、様々な問題で今のところ庁舎を一つになるような形はまだない。谷和原庁舎は、建物が古くトイレも汚いというような意見を頂いており、これから建て直すか、それとも補修して耐震を行うか等の様々な話があるような状況である。

(次ページへ)

発言者	意見
委員	<ul style="list-style-type: none"> 世界的に見ても自然災害に対しては、災害が激甚化をすることが予想されており、国内についても、日本の南側の海水温が通年下がらないということで、台風も大規模なものが上陸する可能性がある。市には、浸水エリアの地域もあり、高台移転は急激にはできないと思うが、緩やかにでも安全・安心に住めるような計画としてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 水害につきましては、鬼怒川や小貝川、中通川という一級河川があり、改修工事を県で進めている。こういった水害対策やマイタイムライン等について防災課で対応している。今後、温暖化によって台風が大型化して、想定外というのが続いているが、想定できるような形でないといけないようなことがあると思うので、今後も県や国と連携していきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送について、去年のつくばみらい市の救急出動件数が2067件あった。前年と比べると、約100件救急搬送が増加をしており、そのうち、約7割が急病の搬送であり、特に高齢者の急病が大変多くなってきている。二次救急医療機関の誘致は難しいと思うが、クリニック等の病院が進出してくれば、そういった救急関係の出動も減ってくると思う。つくばみらい市内の救急車が全て出払ってしまい、常総市や守谷市の救急車が出動というケースもあるため、本当に重症患者が対応できないというようなこともある。一般の軽傷や急病人であれば、町のクリニックで対処できるのではないかというようなケースもある。私の個人的な見解もあるが、二次救急医療機関の誘致が無理であれば、クリニックの進出が進めばいいと思っている。 救急車は市内に3台あるが、救急で受けてくれる病院が市内にも一部あるが、ほとんどが隣接のつくば市、常総市、守谷市、取手市の搬送が約9割くらいである。1回出動すると少なくとも1時間～1時間半ぐらい救急車が戻ってくるまでに時間がかかるという状況である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> つくばみらい市は、つくば医療圏というところに属しており、病床の過剰地域ということになっている。総合病院や20床以上の病院を作るというのが、お金とかを抜きにしても、難しい状況である。つくばみらい市には大きな病院はないが、近隣市には県内でも大きな病院が多数あるため、うまく利用して、安全・安心に暮らせるような都市計画を目指してほしいと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の医療施設との連携は、本当に大切だと思う。これからも連携を進めていくとともに道路ネットワークの構築も必要であり、そのようなことも踏まえながら進めていければと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 当社（バス会社）が、5年前の鬼怒川氾濫の際に、水海道の営業所が水に浸かってしまい、交通も麻痺してしまったということがあった。また、去年の10月の台風では水戸北スマートインターが2～3カ月使えなくなり、鹿島ー東京線高速バスが麻痺してしまったというがあり、防災に対しては、非常に私も関心がある。何年先になるか分からないが、浸水等の被害がないように対応できるような計画の内容が一番いいと思う。 コミュニティバスが、今年4月から再編されるが、当社も運行させていただいており、地域に密着した運行を、市役所と連携して進めていきたい。

(次ページへ)

発言者	意見
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスは、今年の4月1日から、2台体制で運行しているコミュニティバスを3台増やし、5台で運行するという事になっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートインターチェンジに関しては、水戸であのような被害があったため、つくばみらいにできるスマートインターチェンジは大丈夫かという疑問も多少あるが、そのような安全面もちょっと考えてもらえたらと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の9月に国からつくばみらいのスマートインターチェンジについて事業化が採択された。今後の整備に向けて、プロジェクト推進課というところで話を進めているが、整備には数年かかる。効果の一つでは市外、総合病院までのアクセスも5分、10分短縮ができると聞いている。こういった道路の整備と合わせ、長い取組の整備もしていくと、つくばみらい市も発展していくと思う。 ・スマートインターチェンジの場所が浸水区域あたりになるので、川が氾濫した場合には、危ない面もあるが、スマートインターチェンジを使って、高速の高台に逃げるというような方策も進めている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私が住んでいる場所は、小貝川の近くで過去に洪水経験が一度あり、鬼怒川の氾濫の時は洪水を免れたが、土手が切れていれば、同じような場所に住んでいるため、被害があったかもしれない。都市計画マスタープランは、去年から委員として出席しているが、市の職員も去年から見ると、すごく力を入れて変わってきている。そういうところは去年よりよくなっている。 ・仕事で接客業をやっており、高齢者の方がいっぱい来られるが、その高齢者の方に対しての交通の利便性の向上をもっと都市計画マスタープランの中で充足してもらいたい。送り迎えをしないとお店に来られないお客様も多いので、充足していただくといいかなと思う。 ・先日、交通事故の現場に遭遇した際にすぐに救急車を呼んだら、救急車がすぐ来て対応がいいと思った。しかし、警察の対応が遅く連携はどうなのかと思った。都市計画マスタープランに、交通対策や防犯とかは入れられないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故のないように道路整備や、安全対策については、引き続き記載をしている。信号機の要望や、通学の子どもたちへの対応については防災課と連携しながらやっていく。将来的なまちづくりも安全・安心というのがあるので、そういったものは庁内で連携して、市としても取り組んでいく。 ・高齢者対策ですが、デマンド乗合タクシーというものもあり、広く高齢者の皆様にもPRしながら利活用を進めていきたいと思う。

(次ページへ)

発言者	意見
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスを充実させる話が先ほどあったと思うが、病院バスというものも来年度から運行したいと考えている。とりあえず実証実験という形で、伊奈東地区辺りから筑波学園病院に行きたいという要望が強いので、病院直結のシャトルへ乗せて運行するというのも考えている。買い物に困っている方もいると思うので、買い物難民対策としてスーパーの利用についても検討している。今後の高齢者への交通の足というのが非常に重要になってくると思っており、市としても十分に考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・谷井田地区に住んでいるが、過去に水害にも何度かあった。各理事会、区長を通して、いろいろと検討のような形で危機感があるということ、谷井田地区の住民に広く教えてほしい。 ・高齢者の避難について、隣近所の付き合いもなく、どのように避難するべきか、どのように誘導していくのかという対策もやってほしい。 ・保健所の、障がい者の方の手続きが1年に1回ずつ申請があるが、保健所まで足がなくデマンド乗合タクシーもそこまで行ってもらえない。そのため、タクシーや人に頼って送ってもらう等してもらった状況であるが、一人暮らしで障がいを持った方もいっぱいいる。できればデマンド乗合タクシーを使って、つくばみらい市の市役所で申請の受付をしてほしい。封筒で送ることは分かるが書類が不足している場合もありえるので、つくばみらい市に強く検討してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この要望は承って、所長に話をしたいと思う。茨城県では、この難病の手続きの窓口を実は市町村に委託している。つくばみらい市が受ければ市役所で手続きをとれるということを進めている。 ・坂東市と常総市におきまして、市役所の窓口、保健センターで行っており、そういった形を、つくばみらい市の保健衛生部門に検討いただければと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・取手へ行くバスの本数が減ったが、朝と夕方はもう少し増やしてほしいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手の面もあり、本数を9月に減らしたが、そういう意見も頂戴して、今後検討に反映しようと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの本数については、関東鉄道のご協力いただきながら、今後、考えていきたいと思う。 ・保健所の難病申請については、この場でお答えすることは難しいが保健福祉課にもご要望を伝え、検討してもらおう。 ・災害に強いまちづくりの内容は、今回改定する都市計画マスタープランの中にかなり盛り込んでいる。ただ、どういうふう避難するのかという細かいことまで記載できない部分があり、ハード的なもの、ソフト的なもの含めて、今後、詳細の計画の中で煮詰めていければと思っている。

(次ページへ)

発言者	意見
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド乗合タクシーの制約について、どうにかならないのか。 ・デマンド乗合タクシーの3日前に予約するというのは、どういう根拠なのか。病院へ行く際には、基本的に予約しているため3日前でいいが、突然、行きたくなった場合は予約が取れないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド乗合タクシーは。市内で4社あるタクシー会社のうち3社に協力いただいて、1日に2台デマンド乗合タクシーという形で運行している。通常は、1回500円の料金で市内どこでも行ける制度となっている。 ・市民の方が利用しやすい形で運行できないか協議はしているが、市外まで対象を広げると一般タクシーに影響が出てしまう。例えば、市内から市外の病院とかに行きますと、2500円とか片道でかかるものが、仮に500円で行けるようになってしまうと、タクシー会社の運営上厳しいものがあるということを知っている。 ・また、市外にもタクシー事業者があり、それぞれ営業範囲などがあるため、つくばみらい市から市外に出られないという実情がある。様々な制約もあるため、広域が使用できるような便利で安いという形が構築できないというのが現実である。 ・通常3日前から予約ができるとなっている。場合によっては、60分前、緊急で使いたい時があれば、60分前に予約センターに電話を入れれば使える。一番早い便が、8時から運行するが、午前8時と午前9時から出発するデマンド乗合タクシーについては、すぐには対応できない。前日の17時までに予約をすると、翌日朝の8時や、9時の便に乗れる。乗合率は1回運行で1.3人ぐらいであり、1人かもしくは2人乗っているというような状況。時間ちょうどに迎えに来てもらえるとは限らないので、幅を持たせて予約いただくこととなる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・避難要請者名簿の作成というのは義務付けになっていると思うが、どのような方が支援対象として決められているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の方であるか、高齢者世代の方であるかは、担当課で把握は行っていると思う。地元説明会とかの会議の場で、谷井田の小学校とか避難地に指定されていないとお叱りを受けたこともあるが、地域防災計画（防災課が担当）の中で、東日本大震災や平成27年の東北関東豪雨等の大きな災害を踏まえて平成30年に見直しを行っている。いただいたご意見については、防災課に伝える。

(次ページへ)

発言者	意見
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・つくばみらい市が平成 18 年に合併してから 14 年程度経過し、当時子どもたちだった世代が社会人になり、このつくばみらい市から巣立っていった子どもたちが結婚し、もう一度つくばみらい市に戻ってくる。つくばみらい市で生まれた人が、また住みたいと思えるような郷土愛を育むような教育を、今からでも始めていかないといけないのでは。どういった形で郷土愛を育てていくかは、難しいことで自分も方法が分からないし、行政に任せてすることでもないし、私たち大人が子ども達に教えていくものだとは思ふ。人口流入が順調に増えていることは良いことだが、そこで育った子ども達を、いかにもう一度つくばみらい市に住むようにするかというのも、今後の課題として必要になってくると思う。 ・みらい平地区も、30 代や 40 代で買われた方が多いと思うが、それが 30 年後や 40 年後になって、60 代や 70 代になって、高齢化してしまう。昔の伊奈町という谷井田地区や伊奈東地区はミニ開発で整備された街で、谷和原村では絹の台地区が平成元年に開発され、現在では住んでいる方は高齢化してしまい、そこで生まれた子ども達ってというのは、今は住んでいないっていう現状がある。 ・順調に教育レベルについては上がっていると思うが、一方で文化レベルというのは低いままだと思う。昨年、茨城県では国体が行われたが、会場としてつくばみらい市は何も誘致できなかった。賛否両論はあると思うが、文化施設っていうものも整備していかないと、著名な指導者や有名な方が来てくれないというようなこともスポーツ団体から聞いているし、そういった文化レベルを上げていくっていうことも、今後大切だと思う。 ・都市計画マスタープランに直接関係する意見とは異なると思うが、10～20 年後のつくばみらい市を考えると、そういったことも必要だと思う。
有田委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・他の都市計画マスタープランの策定にも携わっており、その中で、教育水準の話や教育環境の話は常に出てくる内容で、子どもが生まれたら隣接の自治体に流出してしまう可能性が高い等の議論は頻繁にされており、重要な課題である。 ・また、子ども達が将来生まれ育った市に愛着を持ってもらうための取組は、これも同様の事例が他の自治体でも議論されている。東日本大震災の後に、茨城県北部の自治体で同様の議論が出ており、子ども達が生まれ育った自治体に将来的に住みたくないという回答が中高生からたくさん出て、大変衝撃を受けられた。 ・都市計画マスタープランの策定過程を通じて、具体的にまた戻って来てもらうためには何ができるだろうかということ、一個一個皆さん考えて具体的な手段につなげるのは難しいが、考えていくことが重要である。 ・

(次ページへ)

発言者	意見
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今住んでいる子ども達が、愛着を持って故郷としてまた戻ってくるということは大変大事なことだと思う。高齢化が進んでいるオールドタウン、これを解消するには、市に愛着を持っていただいて戻ってきていただく、そういった市でないと継続していくのはなかなか難しいため、課題として認識している。 ・文化についてご指摘のとおり、つくばみらい市は弱いという意見もあり、大きな施設がないというのも課題である。文化を育んでいくような環境も、まだ弱い部分があるのと思っており、今後取り組んでいきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく何か作っていくっていうものも大事だと思うが、今ある地域資源も、今後いろいろと活用してほしいと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは外向けのPRというものを重視していたが、これからは市民の方向けにつくばみらい市に愛着をもってもら政策が必要だろうということで、「I LIVE IN TSUKUBAMIRAI」というようなキャッチフレーズを、前面に出してPRしながら進めていく。

以上